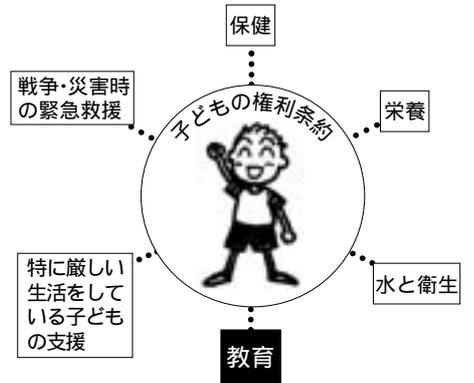


基礎講座

UNICEF

ユニセフの活動の中で、教育事業は非常に重要な分野です。教育は、貧困、紛争、環境破壊などといった世界のさまざまな問題を解決していくための大きな力となるからです。



第4回 教育

『教育は、子どもが自分のもっているよいところをどんだんのばしていくためのものです。教育によって、子どもが自分も他の人もみんな同じように大切にされるということや、みんなとなかよくすること、みんなの生きている地球の自然の大切さなどを学べるようにしなければなりません』
(子どもの権利条約第29条要約)

教育は「子どもの権利条約」が約束する基本的人権のひとつです。世界中のすべての子どもたちが、教育を受け、自分たちの可能性や能力を伸ばしていく権利をもっています。しかし、現在1億4000万人の子どもたちが、さまざまな理由で学校に行くことができません。ユニセフは「すべての子どもたちが初等教育を受けられるようにする」という目標に向かって活動しています。

学校をつくる

ユニセフは、各国政府と協力し、学校のない地域に学校をつくります。学校をつくるときは、地域の人たちが「自分たちの学校」という意識をもてるように、地域の人たちと相談しながらすすめます。また、地域政府と協力しながら、学校にイスやつくえ、子どもたちの学習セット、先生用の教材などを供給します。

質の高い教育を

しかし、学校ができたとしても、たくさん子どもたちがひとつの教室につめこまれ、黒板もなく、しっかりしたトレーニングを受けていない先生が教えている学校だったらどうでしょう。たとえすべての子どもたちが学校に通えるようになったとしても、本来の目標には程遠いものです。目標の達成のためには、質の高い教育が大切です。そのためにユニセフは、各国の政府と協力して、先生のトレーニングを行ったり、カリキュラムや教科書の内容を考えたりします。

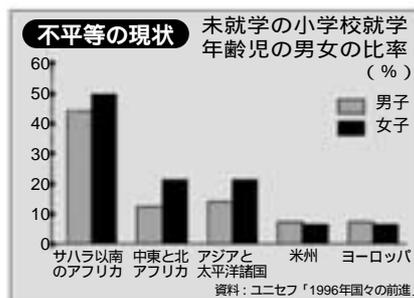
教育の質

数字は最貧の14カ国の小学校についての1995年の調査結果

	1クラスの生徒数 (第一学年)	黒板のない教室 の比率(%)
バングラデシュ	57	47
ベニン	71	2
ブータン	26	3
ブルキナファソ	72	79
カボベルデ	33	42
赤道ギニア	112	48
エチオピア	65	36
マダガスカル	34	51
モルディブ	25	51
ネパール	40	
タンザニア	40	54
トーゴ	67	8
ウガンダ	63	35
ザンビア	36	44

資料：ユニセフ「1996年国々の前進」

女の子と女性の教育



「女の子に教育を受けさせる必要はない。」伝統的にそんな考え方をもっている地域があります。家庭での仕事があるから、どうせ他の家に嫁ぐのだから、といったさまざまな理由で、女の子は教育から遠ざけられます。しかし、教育を受ける権利は女の子も男の子も平等にもっています。そして、教育を通して社会全体が女性に対する意識を変えていくことが必要です。

教育を受けた女性は、受けていない女性より、子どもの健康、栄養、衛生について知識をもっています。そのため、教育を受けた母親の子どもは死亡する率が低く、栄養不良の割合も低いことが多いのです。子どもを健康に育てられる確信が得られると、親は子どもをたくさん産まなくても安心することができます。女性の教育は人口問題の解決にもつながっているのです。

ユニセフは、伝統的に女性の社会的地位の低い地域で、女の子を主人公とし



たアニメーションを作成し、テレビで流したり映画館で上映したりして、社会全体の意識を変えていく活動をしています。また、教育を受ける機会を奪われた女性のために、識字教室も開いています。

緊急事態の中の教育

自然災害や紛争が起きたとき、子どもたちの命やくらしを守るために、食料や薬、テント、毛布などが必要となります。教育もまた、子どもたちの命を守るために必要なものです。

紛争にまきこまれた子どもは、たとえ体に傷を負わなくても、心は深く傷ついています。その心の傷のために、生きる力を失ってしまう子どもたちがたくさんいます。そんなとき、難民キャンプでの学校は子どもたちが生きる勇気を取り戻す場となります。同じ経験をした仲間たちと出会い、つらい経験を分かち合うことで、心の傷をいやし、平和な未来を考えられるようになっていくのです。

ユニセフは、ルワンダで紛争が起きたときに、難民キャンプでも学校が開けるように、「スクール・イン・ア・ボックス(箱の中の学校)」と呼ばれる、箱に入った80人分の教材セット(1セット約1万4000円)を届けました。この「箱の中の学校」で、72万人のルワンダの子どもたちが勉強しました。



「箱の中の学校」

©日本ユニセフ協会